

令和6年12月13日
(2024年)

保護者の皆様

吹田市立千里第二小学校
校長 郷 文子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数に関する調査
- ◆生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

2. 調査結果の概要と課題

(1) 調査結果の概要

国語 全国値を上回っている
算数 全国値を上回っている

(2) 各領域における成果と課題 ○できた点 ●課題となる点

	領域	正答率から見える課題など
国語	知識及び技能	○漢字を文の中で正しく使うことができる ○情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる
	思考力・判断力・表現力等	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がみられる

	領域	正答率から見える課題など
算数	数と計算	○数量の関係を、□を用いた式に表すことができる ○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している
	図形	○直方体の見取り図について理解し、かくことができる ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えて立方体の体積の求め方を式に表すことは、全国値を上回っているものの、他の問題より正答率が低い
	変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することは、全国値を上回っているものの、他の問題より正答率が低い
	データの活用	○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述することは、全国値を上回っているものの他の問題より正答率が低い

【国語】

本校の平均正答率はほとんどの問題で全国値を上回っており、良好な結果であった。

しかし、「書くこと」については、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられた。

今後の取り組み

- ① 理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べる活動の機会を増やします。
- ② 自分の考えとそれを支える根拠が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けられているかを吟味する学習活動を増やします。その際、根拠を表す表現や文末の書き表し方について確認する場を持ちます。
- ③ 友達同士で確認し合うなど、読み手の視点に立って考えを深められるような学習活動を増やします。

【算数】

本校の平均正答率は、すべての問題、項目において全国値を上回っており良好な結果であった。

しかし、数学的に記述、説明することに課題がみられた。

今後の取り組み

- ① 児童自身が課題を明確に捉え、それに沿って資料を積極的に集め、観点を決めて分類整理することができるように配慮していく機会を増やします。
- ② 表やグラフから特徴や傾向を捉えて考察したことを、どの部分から考えたのかを他の人にもわかるように伝える活動を取り入れていきます。
- ③ 同じところや似ているところ、違うところを見出し、表現できるようにするとともに、伝え合うことで様々な考えがあることに気づくことができる活動を増やします。

- ④ 既習の計算方法の意味や、十進位取り記数法や乗法九九などを基にして、新しい計算の仕方を考え、問題解決などにおいてよりよいものを求め続けようとする態度や、多面的に考えようとする態度を育成していく機会を増やします。

3. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析

- 「朝食を毎日食べている」児童は全国値をやや上回っており、「毎日同じ時刻に寝起きている」児童は全国値を上回っている。また、「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをするか」・「携帯電話やスマートフォンで SNS や動画を見る時間」については2時間以上の長時間であると回答した児童の割合は全国値を下回っている。規則正しい生活や端末の使用などの、子どもの生活習慣に対する家庭での意識の高さが伺える。一方で「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を守っているか」については肯定的回答が全国値を下回っている点は、学校と家庭が連携して改善すべき課題である。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」については、『あてはまる』の回答が全国値を上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」でも同様の結果となっており、学校内外で、子どもたちの自己肯定感が上がる機会が保障されていると思われる。またその結果が、「将来の夢や目標を持っていますか」で『あてはまる』の回答が全国値を上回ることに繋がっていると考えられる。
- 「人が困っているときは、進んで助けますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では『あてはまる』の回答が全国平均を上回っており、人として前向きな行動をよいと思う様子が見られる。しかし一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では肯定的な意見は全国値をやや下回っており、『あてはまらない』は全国値より高く、気にかかる。今後も「いじめは絶対に許されないことである」と伝え続け、自分事として考え・判断できる子どもたちを育てていきたい。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」は『あてはまる』の回答が全国値を上回っている。しかし一方で「自分と違う意見について考えるのは楽しい」は『あてはまる』の回答が全国値よりも低い。児童同士が、互いのことを知る楽しさに気づき、積極的に考えの伝え合いができるよう、学校生活の中でその機会を作っていく必要がある。
- 「自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したか」「授業で課題解決に向けて、自分で考え、自ら取り組めたか」「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていたか」は、いずれも『あてはまる』の回答が全国値を上回っており、子どもたちが主体性をもって学習している成果であると考えられる。
- 「放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いか」では、『家での学習』『学校以外での学習』『習い事』のどれもが全国値を上回っており、その分『家族と過ごしている』が全国値を下回る結果となったことには留意しておく必要がある。

4. 今後の学力向上の取り組み

教科に関する調査では、「記述力」に課題が見られました。特に、国語では自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くこと、算数では数学的に記述・説明する問題です。

本校では、【「書くこと」における小学校6年間の系統性を踏まえた国語の授業】というテーマを今年度の研究主題とし教職員一同授業力向上に取り組んでいます。引き続き研究を推進し、さらなる授業力の向上をめざしていきます。また、授業を通して、自分の考えを工夫して書けるような指導に取り組み、子どもたちに課題に対応できるよりよい力をつけていきたいと考えます。

生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析では、自己肯定感の高さや子どもの生活習慣に対する項目から各ご家庭でのサポートや意識の高さが伺えました。その思いに寄り添い、学校でも子どもたちの人権を尊重し、主体的に行動できるよう大切に育んでいきたいと考えます。

本調査からも見えてくるように、ご家庭と学校と地域で協力しながら連携を図ることは子どもの成長にとってとても大切な要素です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。